冬のウォーカブルなまちづくり

札幌市まちづくり政策局政策企画部
政策推進課　阿部　勇士

1. 札幌市の概況（1）都市の特徴

- 広域図（北海道）-

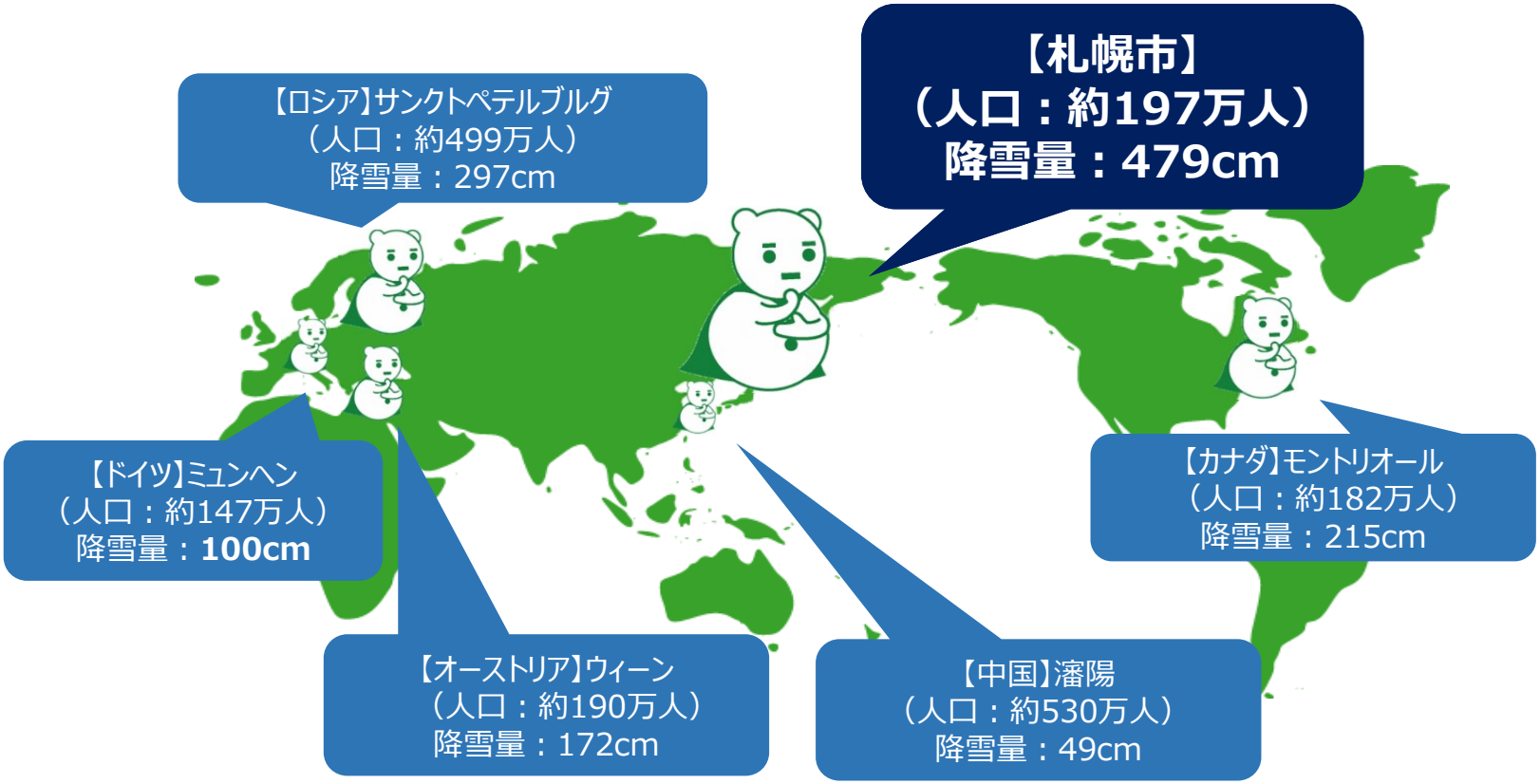
- 拡大図（札幌市）-

■面積　1,121㎢
※市域の6割が森林
■人口　1,968,265人（2024年10月1日）
■気温　平年10.0℃
最高34.3℃、最低-14.9℃
（2020年）
■年間降雪量　平年479cm
■開拓使設置　1869年（明治2年）
■市制施行　1922年（大正11年）

SAPPORO

1.（2）厳しい気候条件

- 約5m級の雪が降る人口100万人以上の都市は世界で札幌市のみ
- 市民の冬期外出率は秋期と比較して約16%減少。健康面においても大きな課題に



- 除雪により道幅が狭くなった道路 -

- 圧雪によりザクザク路面化した道路 -

※札幌市の降雪量は、気象台（札幌）の平年値
世界各都市の降雪量は、昭和63年の調査値
人口は総務省統計局「世界の統計　2022」　より

SAPPORO

2. ウォーカブルシティの推進（1）推進の背景

- 令和4年度に札幌市の長期総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定
- 重要施策の一つとして「ウォーカブルシティの推進」を掲げ、市長公約にも位置づけられている

札幌市の長期総合計画（令和4～13年度）

目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと
新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

分野横断的に取り組む施策（プロジェクト）の設定

- ユニバーサル（共生）プロジェクト
- ウェルネス（健康）プロジェクト
- スマート（快適・先端）プロジェクト1 プロジェクト2
- 人口減少緩和プロジェクト

プロジェクト3本柱の1つに【ウォーカブルシティの推進】
「居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留したくなる空間の形成に向けて、都心・地域交流拠点・住宅市街地のそれぞれの特性を生かした空間の整備を進めます。」

⇒令和7年度末に「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」を策定予定

SAPPORO

2.(2)推進本部体制と検討プロジェクトチームの設置

- 局横断的にウォーカブル政策を推進するため、「札幌市ウォーカブル推進本部会議」を設置
- 様々な分野の実務担当が集まるプロジェクトチームを組織し、札幌市が目指す都市像を議論中

サッポロウォーカブル本部会議　（局長級）※本部長：天野副市長

サッポロウォーカブル幹事会　（部課長級）※事務局：政策推進課

都心PT
- 都心まちづくり推進室
- 公共交通システム担当課
- みどりの推進課
- 道路管理課
- 交通計画課
- 観光MICE推進課　ほか

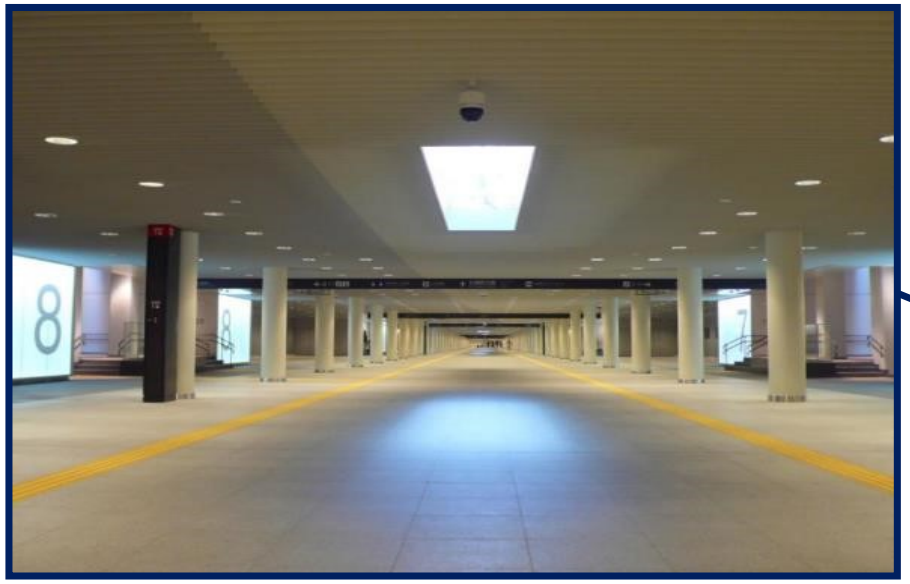
地域交流拠点PT
- 政策推進課
- 交通計画課
- 観光MICE推進課
- 地域計画課
- 事業推進課
- 道路管理課　ほか

住宅市街地PT
- 政策推進課
- 景観係（地域計画課）
- ウェルネス推進課
- ユニバーサル推進室
- 交通安全施設係（道路課）
- 都市計画課　ほか

本部長（天野副市長）より、「**これまでの慣例に縛られず、新たな制度の活用や、既存の事業の見直しなどを積極的に行うこと**」と指示があった（令和6年6月18日第1回本部会議）

SAPPORO

2.(3)都心部における先行事例「札幌駅前通地下歩行空間」



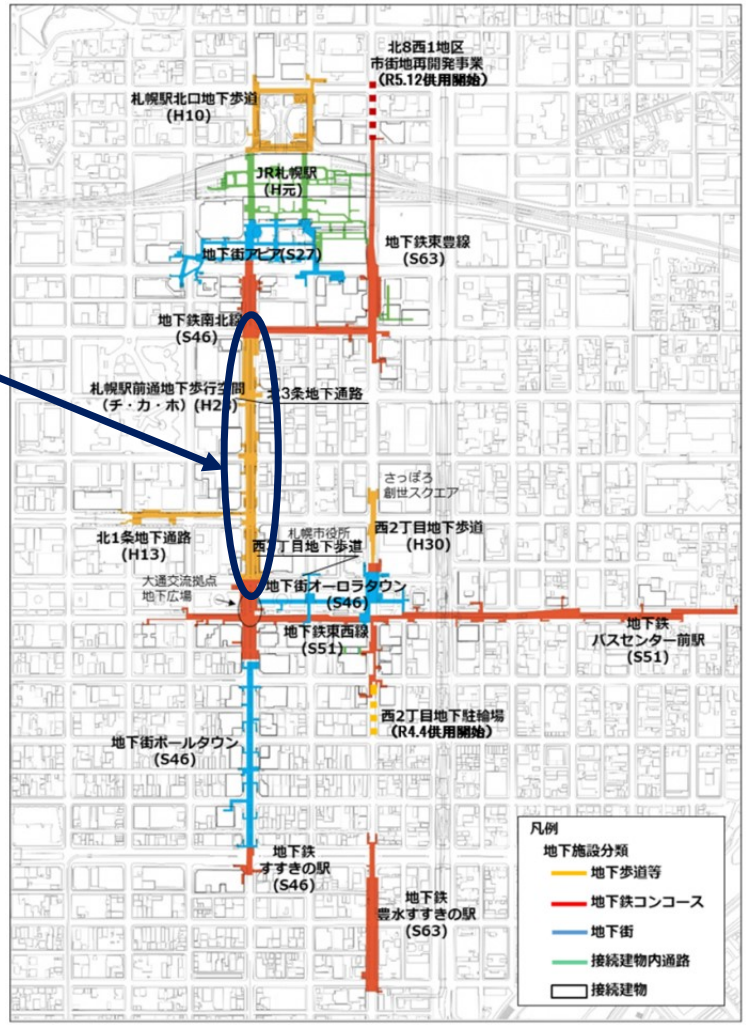
※通行空間(道路)の両側に活用空間(広場)

チ・カ・ホ

■延長:約520m
■幅員:約12m(道路部)、約4m×2(条例広場)
■指定管理者(広場):札幌駅前通まちづくり株式会社
■活用事例:

- イベント活用 -

- 壁面広告 -



- 地下歩行ネットワーク現況図 -

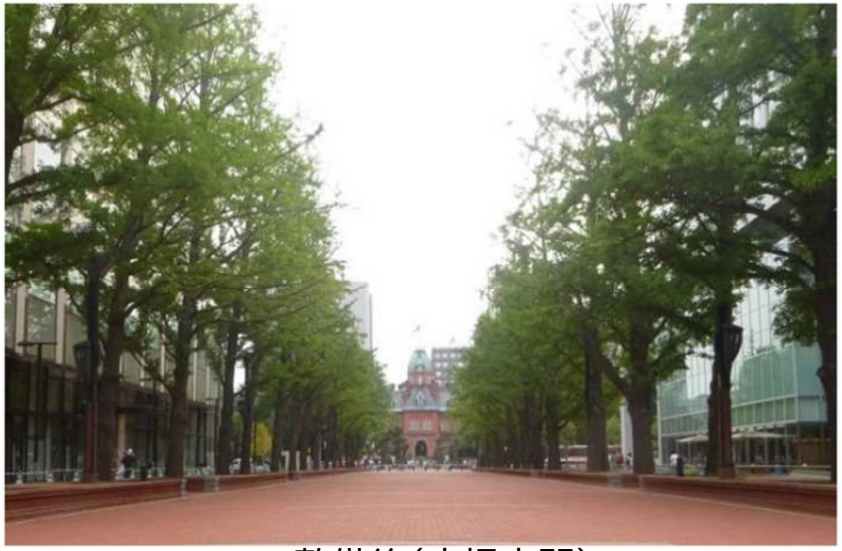
SAPPORO

2.（4）都心部における先行事例「北3条広場」

AKAPLA

■延長、面積：
約100m、約2,800㎡
■位置づけ：
条例広場（道路区域を残したまま兼用工作物協定を締結）
■指定管理者：
札幌駅前通まちづくり株式会社

- 整備前（道路空間）-



- 整備後（広場空間）-

■活用事例：↓

- SMILE RINK SAPPORO -

- さっぽろ八月祭 -

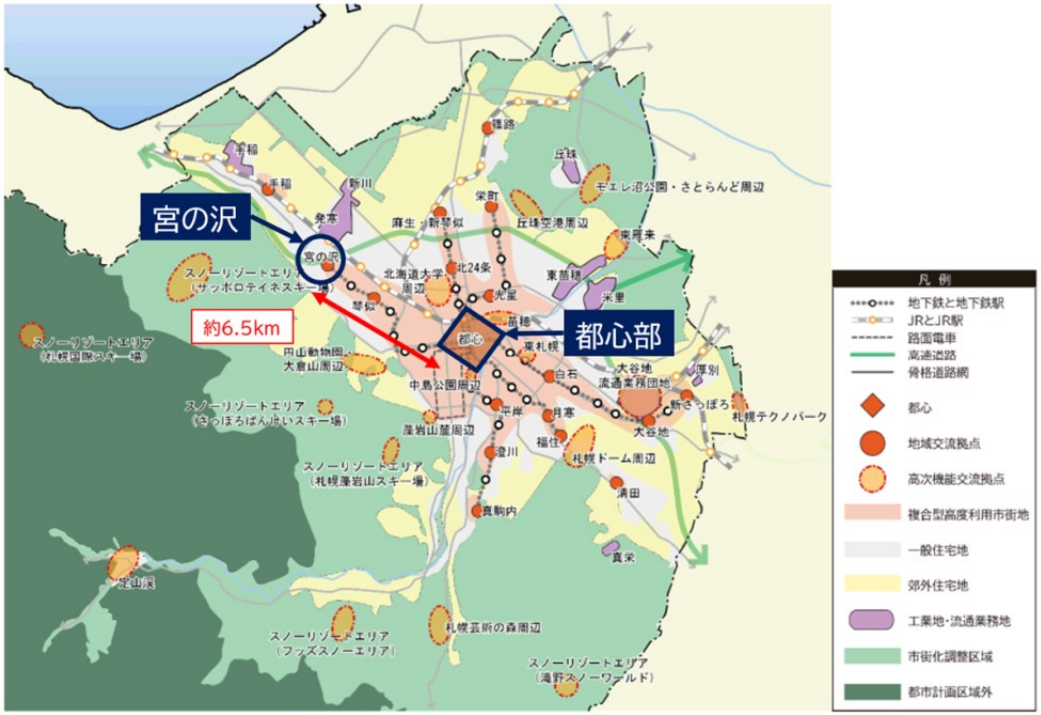
- 3×3フェスティバル -

- SUMMER FES 2024-

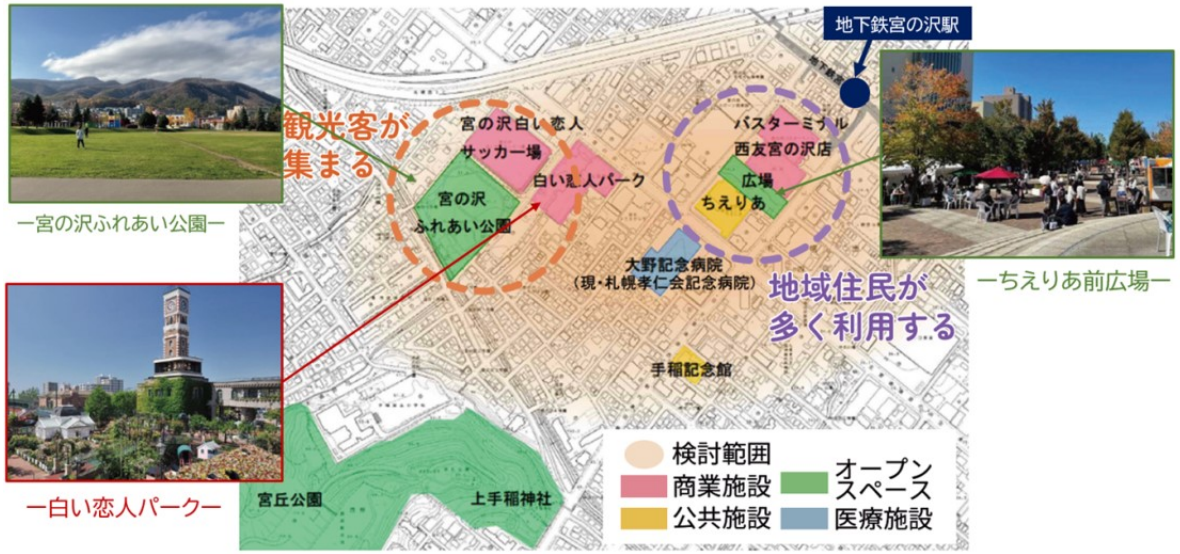
SAPPORO

２.（5）モデル地区「宮の沢」における取組①

- 地域交流拠点「宮の沢」は、都心部から約6.5kmの位置にある地下鉄起終点駅を中心としたエリア
- エリア内には豊富なオープンスペースがあるものの、現状あまり活用されていない
- 白い恋人パーク等の観光施設と、地下鉄駅周辺との回遊性にも課題があり、2極化している



- 都市空間イメージ図（第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンより）-



- 宮の沢地区エリア図-

SAPPORO

2.（5）モデル地区「宮の沢」における取組②

- 地域住民や地元事業者と”歩きたくなる宮の沢”未来ビジョン策定に向けたワークショップを開催
- 参加者の高齢化・固定化という課題に対しては、市民参加デジタルプラットフォームを活用して対応
  →結果：登録者の5割超が30代以下。半年間で100件を超える意見収集が実現した

- 市民ワークショップの様子 -

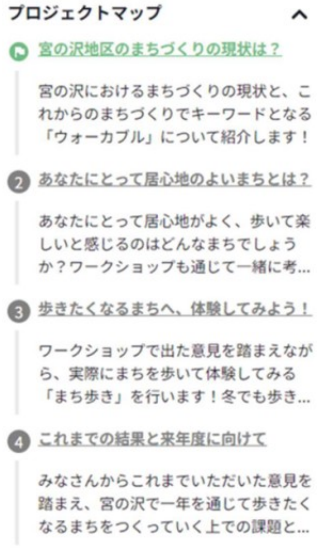
■北海道内初の市民参加デジタルプラットフォーム（実証実験中）

■モデル地区「宮の沢」における情報発信、市民意見集約に活用

■スマホで簡単に操作可能で、誰でもいつでも意見を伝えることができる

my groove

サイトイメージ



取組み全体の流れを可視化

- デジタルプラットフォームの概要 -

SAPPORO

2.(5)モデル地区「宮の沢」における取組③

- 令和6年2月に冬期の屋外空間活用実証実験「スノーライト in 宮の沢」を開催
- 地元事業者等と連携して実施し、灯りや雪を活用したアクティビティの効果が確認された

- レストエリア（焚火体験）-

- スノーキャンドル点灯（公園）-

- スノーキャンドル点灯（道路）-

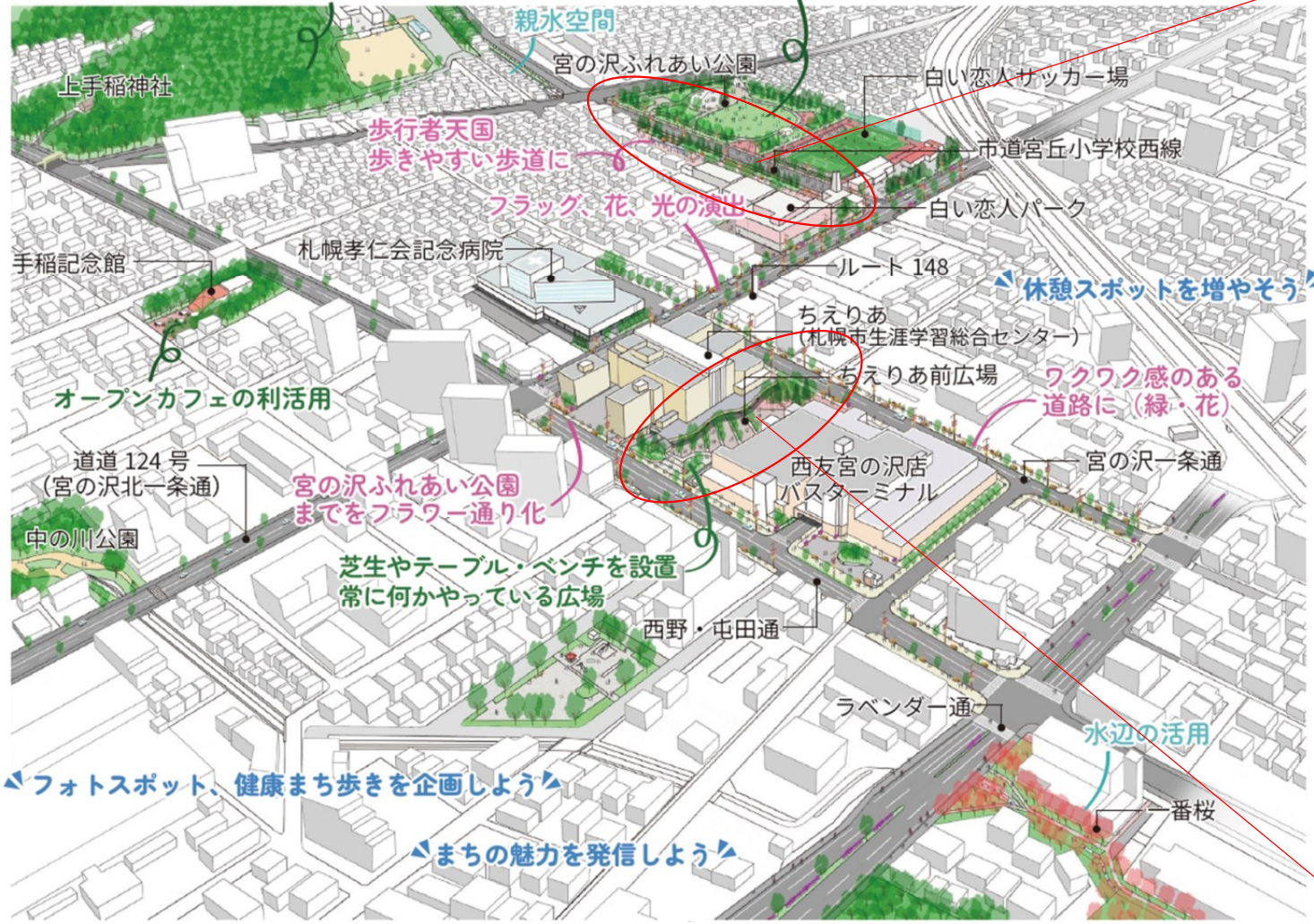
- キッチンカー出店 -

SAPPORO

2.(5)モデル地区「宮の沢」における取組④

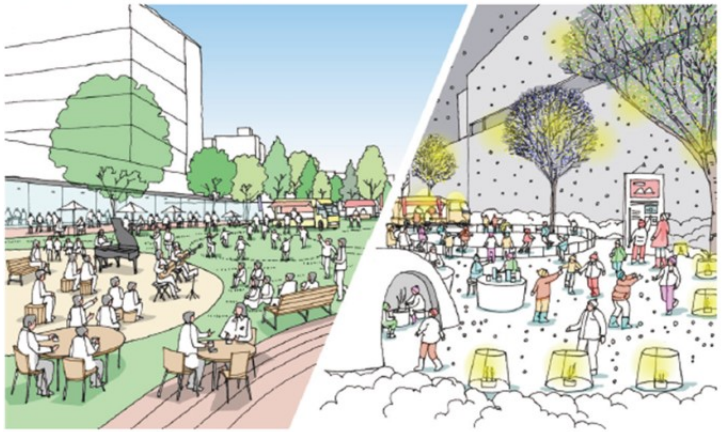
“居心地が良く歩きたくなる宮の沢”未来ビジョン完成（令和6年3月）

宮の沢エリア全体



今夏、歩行者天国化の社会実験を実施

ちえりあ前広場イメージスケッチ



夏の様子	冬の様子
・芝生広場の整備や子どもが遊ぶスペースの確保 ・音楽イベントやオープンカフェの開催　など	・スノーキャンドルの設置 ・イルミネーションの復活 ・雪像づくりや冬のマルシェの開催　など

今秋、未来ビジョン実現に向けた社会実験を実施

3. 観光まちづくり（1）第２次札幌市観光まちづくりプラン

- 令和5年度に今後10 年の観光に関する取組の方向性を示す第2次札幌市観光まちづくりプランを策定
- 観光案内サインの多言語化や、公共交通の利便性向上、ユニバーサルツーリズムの推進にも取り組む

第２次
札幌市観光まちづくりプラン
2023～2032

North Capital Backed by Nature

大自然とともにある、北の首都

～世界の旅行者に選ばれる持続可能な観光都市 SAPPORO ～

市民が誇りに思う魅力あふれる暮らしやすい「まち」

- 観光振興により地域の魅力が向上し、世界から旅行先として選ばれ続けるまちであることに市民が誇りを持っています。
- 観光により地域が潤い、市民にも旅行者にも快適なまちづくりが促進されることで、市民の生活の質が向上しています。
- 市民が札幌の持つ魅力を楽しみ、それを発信したり、旅行者を案内したり、ともに楽しむことで交流が生まれ、市民と旅行者がお互いに喜びを感じています。

地域一体で持続可能な観光を実現する「まち」

- 旅行者、事業者、市民のそれぞれが観光による恩恵を受ける好循環が生まれるとともに、先人から受け継いだ環境や文化などの価値が守られ、磨かれ続けています。
- 多様な主体が参画し、地域一体で持続可能な観光を実現する観光地経営を実践する体制が整備されています。

旅行者が行きたい、もっと居たい、また来たいと思う「まち」

- 札幌・北海道が、世界が憧れるいつか行ってみたい場所のひとつになっています。
- 季節を問わず、行ってみたい場所、食べてみたいもの、体験してみたいことがあふれています。
- 訪れた人々は、快適にまちをめぐり、あふれる魅力、居心地の良さに心を掴まれ、再訪を誓っています。

多様な事業者が観光により潤う「まち」

- 観光関連事業者はもちろん、そこから派生して様々なビジネスが生まれ、多くの雇用を創出しています。
- 道内事業者が連携し、更に磨かれた北海道の魅力が旅行者に提供されることにより、広域周遊が促進され、道内全体の経済循環が高まっています。
- 高い専門性を持つ豊富な観光人材が育成され、活躍できる環境があり、その豊富な人材が自ら楽しみ、誇りをもって、旅行者に対して高い付加価値を生み出しています。

SAPPORO

3.（2）公共空間における雪を活用した観光コンテンツ

- 国内外の観光客が冬の札幌を体験できる「さっぽろ雪まつり」には毎年200万人以上が来場
- 昨冬には「札幌国際芸術祭2024」も開催され、アートや新たな自動運転モビリティも登場した

- エネス（札幌国際芸術祭2024）-

- さっぽろ雪まつり大雪像 -

- すすきの氷彫刻コンクール -

- GACHA（札幌国際芸術祭2024）-

SAPPORO

3.（3）定山渓地区の魅力向上

- 令和6年8月に「定山渓温泉かわまちづくり計画」が国土交通省のかわまちづくり制度に登録
- 河川管理者や地元関係者と連携して親水護岸や河畔園地等のハード整備や賑わい創出イベントを実施
- 令和6年12月には新たな足湯施設が完成し、訪れる人々の交流とさらなる回遊性の向上が期待

- 「定山渓温泉かわまちづくり計画」イメージ図 -

- 新たに整備する足湯施設（二見公園近辺） -

SAPPORO

4.今後の展開 (1)ウォーカブルビジョン策定と関連計画の連動

- 産学官民協働による札幌版ウォーカブルシティの方向性を示すビジョンを令和7年度末に策定予定
- 目指す都市像を「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」ごとに可視化し、実現に向けた具体的な手法を整理

- 同時期に改定予定の都市計画マスタープランや立地適正化計画、景観計画や再開発方針※との連動も図る

※近年、再開発に伴い空中歩廊を整備することで、雨雪にあたらずにエリアを周遊することが可能となっている(下↓写真)

- 駅移転橋上化と連動した再開発事業(苗穂地区) -

- 市営住宅跡地を活用した再開発事業(新札幌地区) -

SAPPORO

4.今後の展開 (2)世界冬の都市市長会議

- “冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬の技術や経験、まちづくりの取り組みを学び合うためのネットワーク。令和6年12月、6年振りに札幌市で開催予定
- 世界の都市との意見交換から、雪が弱みではなく強みとなる都市へ転換できるよう取組を進めたい

- Winter Design Guidelines(カナダ エドモントン)-

SAPPORO